Medical

病院向け RPA導入ガイド

RPA GUIDE BOOK

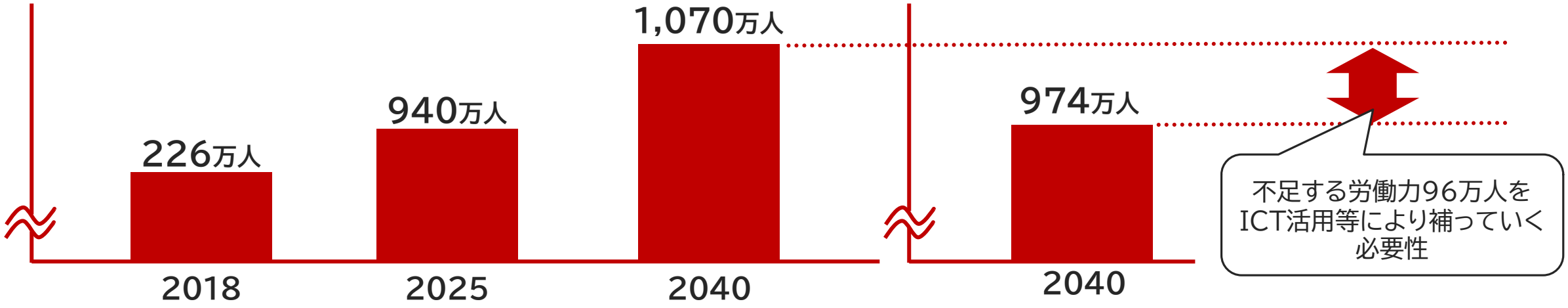
© OPEN, Inc. All rights reserved.

業界の特徴、課題

医療業界では、2040年には、**96万人の労働力不足**が想定されており、
ロボット、AI、ICT等を活用した医療・福祉サービス改革による業務効率化は
待ったなしの課題となっています。

需要面から推計した就業者予測
（医療福祉分野）

需要面・供給面を勘案した就業者予測
（医療福祉分野）

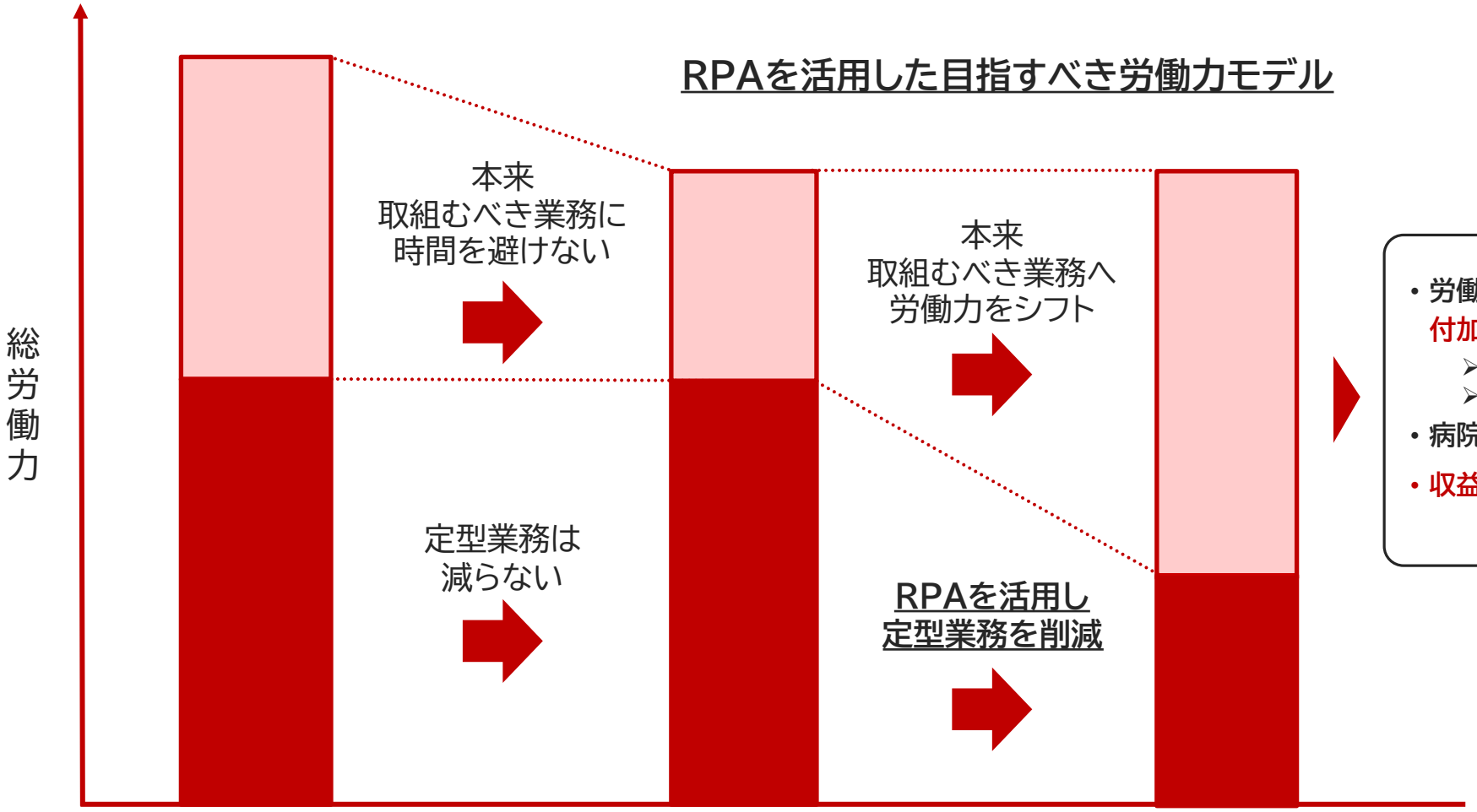


（資料）「2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）に基づくマンパワーのシミュレーション」（厚生労働省）を改訂したもの

© OPEN, Inc. All rights reserved.

新たな労働力モデルの創造

我々は、RPA(＝デジタルレイバー)を活用し、新たな労働力モデルを提唱していきます。



- 労働力不足により、これまで対応できなかった付加価値の高い業務の実施
  - 精度の高いレセプトチェック
  - 毎月ではなく毎週、看護重要度の把握
- 病院における診療の質的向上に寄与
- 収益向上等、病院経営に直結する課題への対応　等

：直接診療に関わる業務

：定型業務

© OPEN, Inc. All rights reserved.

RPAとは

RPA（＝デジタルレイバー）とはRobotic Process Automationの略で、
私たちが日々行っているパソコン上での一連の作業を効率化してくれる“ソフトウェアのロボット”です。

単純作業における
人的ミス

慢性的な人手不足

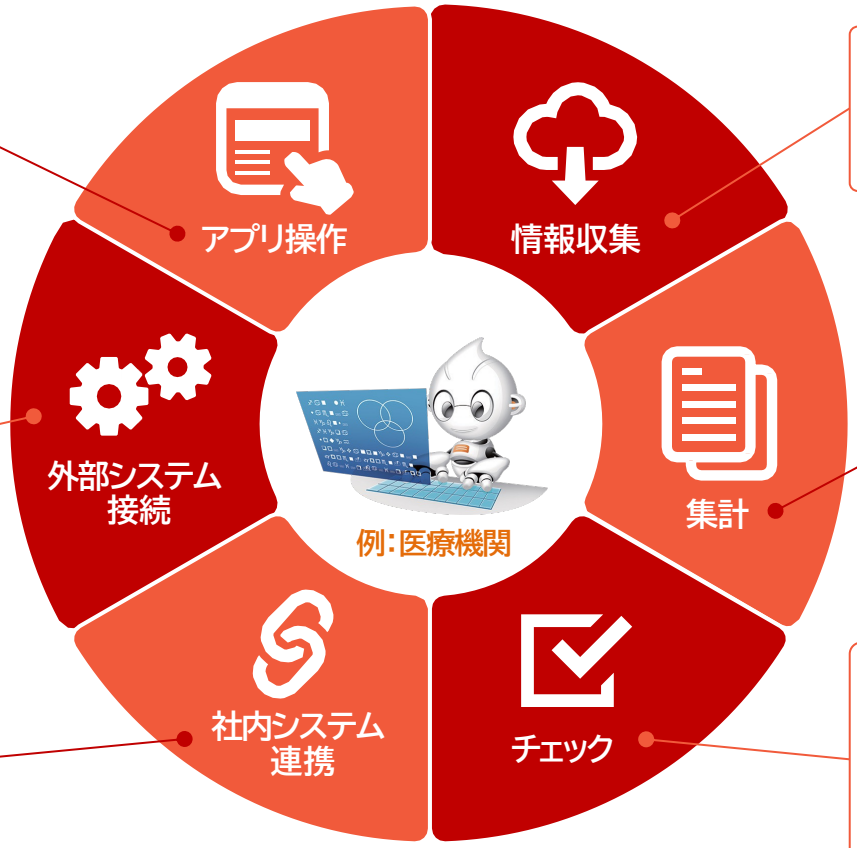
属人的に
なっている業務

RPAによって定型業務を自動化することで、多くの課題を解決へと導きます。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

病院でRPAができること

病院でRPAを使うと、例えばこんなことができます。



- 収益に直結するようなコメントの記載をメールで医師に通知
- 入院患者シートや退院チェックリスト等の自動印刷

- 「電子カルテ」からNCD（National Clinical Datebase）、がん登録システム、日本脳卒中データバンクへの登録用データを自動抽出
- 「医事会計システム」から病院ダッシュボードやgirasol（ヒラソル）等への登録用データを自動抽出

- 未登録の患者リストの病名を電子カルテに自動入力
- 退院患者の指示止めを電子カルテ上に自動代行入力

- 診療報酬改定や医薬品情報に関する厚生労働省HPからの情報収集

- 入院／外来の患者日報・月報の自動作成
- 月次の請求額・収入額自動集計

- MRI/CT、内視鏡検査レポート未読を自動チェックし、メールで通知
- 退院サマリや看護サマリ入力状況の自動チェック

© OPEN, Inc. All rights reserved.

BizRobo!との連携システム実績（一部抜粋）

【電子カルテ・医事会計システム・DWH 】

富士通株式会社	HOPEシリーズ
株式会社ソフトウェア・サービス（SSI）	NEWTONS2 / e-カルテ
株式会社シーエスアイ（CSI）	MI・RA・Isシリーズ
日本電気株式会社（NEC）	MegaOakシリーズ
日本アイ・ビー・エム株式会社（IBM）	IBM CIS+

【経営管理システム】

株式会社girasol（ヒラソル）	girasol（DPCデータ分析システム）
株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン	病院ダッシュボードχ （DPC分析ベンチマークシステム）

© OPEN, Inc. All rights reserved.

想定される3つのデジタルレイバー効果

大分類	効果のイメージ	効果例	
業務効率化	医療事務領域での ロボット業務代行	**『翌日入院患者帳票印刷』：** 平均72人分の患者プロファイルを印刷 ☞ 毎日、電子カルテを1744回クリック ☞ 100分/日の業務をデジタルレイバー化 ☞ 約390時間/年の業務効率化	**『アセスメントシートのチェック』：** 平均50人の退院患者の入院診療計画書がある事のチェック ☞ 毎日、電子カルテを1072回クリック ☞ 2時間/日の業務をデジタルレイバー化 ☞ 520時間/年の業務効率化
医療質向上	医療における人為的なミスを ロボットが事前にチェック	**『要注意所見見逃しチェック』：** 毎日CT、MRIに関する要注意所見が診断され、対応のない患者リストを作成。 主治医に紙ベース・メールベースで対応を促す。	**『eGFR値チェック』：** CT、MRI検査で造影剤を投与する患者のeGFR値をチェックし、規定値以下でロボットが放射線技師に警告する。
収益向上	診療録やレセプトを分析し、 オーダリング漏れや コメント漏れによる 算定漏れ防止を促進する	**『指導料・管理料取り漏れチェック』：** 悪性腫瘍、肺血栓塞栓等の患者や特定薬剤を投与している患者で　算定要件通りの処置を行っているにも関わらず、指導料や管理料が請できていない患者の抽出	**『汎用オーダリングによる加算漏れチェック』：** 透析患者の夜間、休日加算等、特殊要件時に加算可能なオーダリングをRPAが自動で認識し、オーダリングを支援

© OPEN, Inc. All rights reserved.

想定される3つのデジタルレイバー効果 ①業務効率化

部門	代表的なロボット事例
総務 人事 経理	・勤務時間の集計（拠点別、部門別、個人別） ・見積書からの発注書作成 ・業者からの請求書、検収書チェックから支払伝票作成まで自動化
医事課	・外来日報、月報作成 ・肺血栓塞栓症予防管理料算定漏れチェック ・せん妄ハイリスク患者ケア加算算定漏れチェック ・未作成・未承認退院サマリのチェック
看護部門	・各病棟の忙しさ見える化 ・退院チェックリストの作成 ・退院困難リスク患者の退院支援計画書の記載状況チェック及び自動作成

業務削減効果

業務削減算出根拠

A 事務および看護部を除くコメディカル部門
年間業務削減効果は病床数×10時間

B 看護部
年間業務削減効果は1病棟（看護）あたり1,500時間

想定される削減工数例

例えば、200床、5看護単位の病院で、事務領域で対象業務40程度、業務削減工数として2,000時間/年、看護領域で対象業務10程度、業務削減工数として、7,500時間/年を想定。

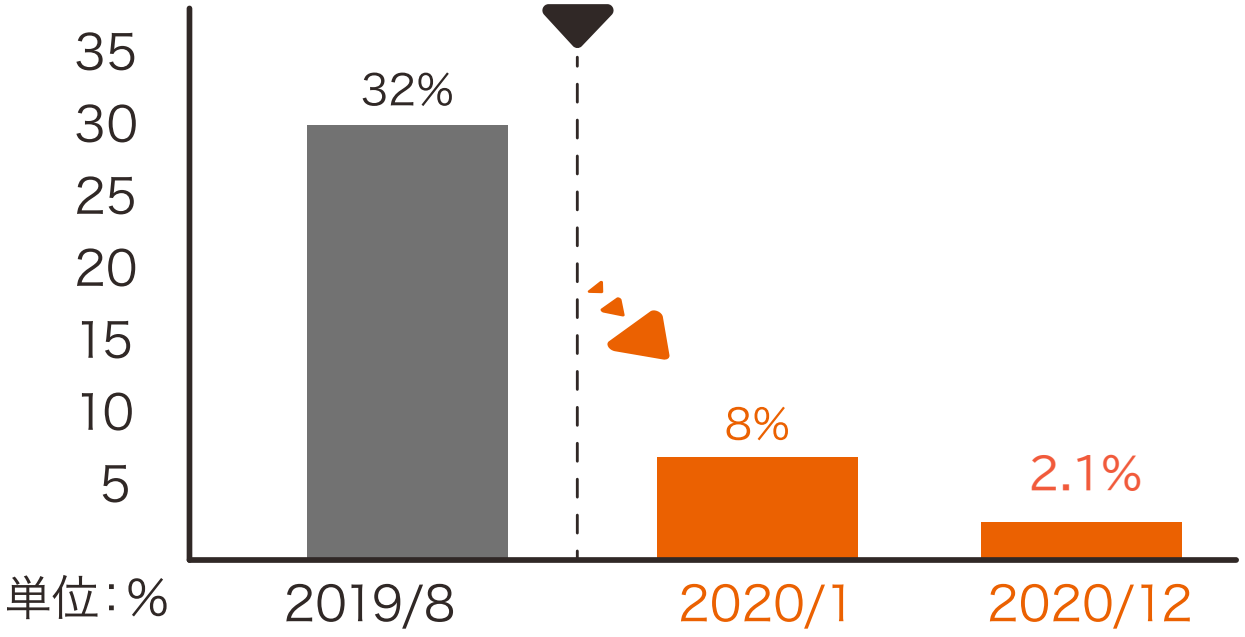
合計9,500時間/年の工数削減に寄与

© OPEN, Inc. All rights reserved.

想定される3つのデジタルレイバー効果 ②医療の質向上

CT、MRI未読チェックロボによる1カ月以上未読率を2.1%まで削減

CT、MRI所見レポートの1カ月以上未読率の推移



「要注意所見見逃しチェック」ロボ運用開始以降、所見の1カ月以上未読率が劇的に改善

© OPEN, Inc. All rights reserved.

想定される3つのデジタルレイバー効果 ③収益向上

適切な治療管理を行っているにも関わらず、算定できていないケースをRPAが特定

現状

治療管理 → 医療従事者のコメント等記述無し → 指導料・管理料算定できず

ロボットの活用による算定漏れ防止のイメージ

治療管理 → 医療従事者のコメント等記述無し → ロボットがコメント等の記述状況をチェック → ロボットによるコメント記載アラート → 医療従事者コメント記載 → 指導料・管理料算定率向上＝収益向上へ

【算定漏れチェックの例】

- 悪性腫瘍特異物質管理料オーダー漏れチェック
- 肺血栓塞栓症予防管理オーダー漏れチェック
- せん妄ハイリスク患者ケア管理オーダー漏れチェック
- 特定薬剤投与患者オーダー漏れチェック
- 救急医療管理料算定漏れチェック
- 副傷病の有無チェック
- 共同指導＆査定実績のある案件へのアラート　等

肺血栓塞栓症予防管理料、せん妄ハイリスク患者への対応、外来患者への査定対策アラートで、約900万円/年の収益向上を実現済みの事例あり

© OPEN, Inc. All rights reserved.

病院での
RPA活用事例

© OPEN, Inc. All rights reserved.

病院でのRPA活用事例 ①業務効率化

■退院サマリ作成督促ロボット

電子カルテから未作成・未承認の退院サマリが残っている医師のリストを出力した後、医師毎にサマリ未作成のリストを印刷するロボット。

医療秘書課

電子カルテからデータを出力

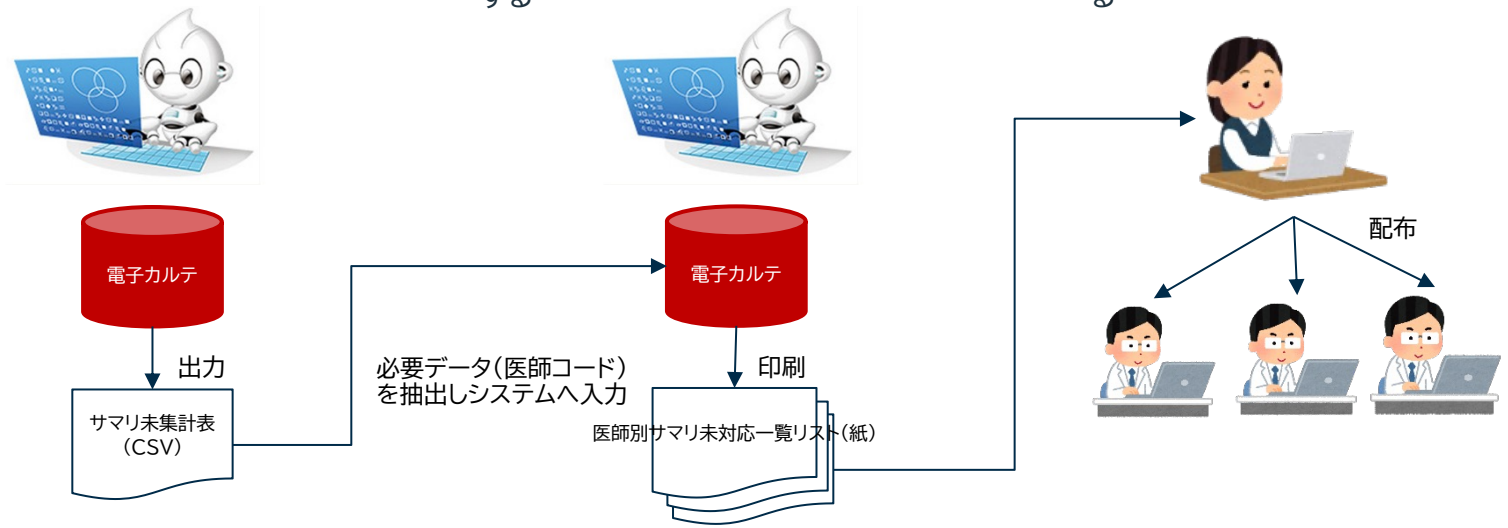
ロボットが電子カルテから未作成・未承認の退院サマリが残っている医師のリストを出力する

データ入力・サマリ未対応一覧リストを印刷

抽出データを「退院サマリチェック一覧」に入力し、医師毎にサマリ未対応一覧リストを印刷する

サマリ未対応一覧リストを医師に配布

印刷されたリストを各担当医師に配布し、医師にサマリ作成を依頼する



・RPA導入前：医療秘書課にて、未作成のサマリを医師ごとに通知するために手作業で確認・印刷
・RPA導入後：データ抽出～印刷部分をロボットで行い、人による作業を削減する、年間で26時間の余剰時間を創出

© OPEN, Inc. All rights reserved.

病院でのRPA活用事例 ②医療の質向上

■所見未確認リスト出力ロボット

電子カルテから、所見未確認のリストを出力するロボットです。担当者が各医師に所見未確認の通知を行い、所見見落としを防止します。
※CT、MRI、RI、PET検査に関する所見

放射線課

所見未確認リストを出力・加工

- 電子カルテから、所見未確認リストを出力
- リストを加工し(不要列削除・日時記入など)、エクセル形式で保存

データ確認・医師に通知

- 担当者がデータを精査し、必要に応じ医師に通知することにより、所見見落としを防止

検索

～検索条件～
下記の対象患者
該当月:前月
該当診療科:MRI等の検査オーダーを実施している診療科
所見確認:未確認

電子カルテ → 出力 → 所見未確認リスト（CSV）

加工 → 所見未確認リスト（エクセル）

確認 → 所見未確認リスト（エクセル）

通知 →

・RPA導入前:担当者が電子カルテから所見未確認リストを出力・加工し、医師に通知する
・RPA導入後:ロボットが所見未確認リストを出力・加工、担当者が加工データを確認し医師に通知する。
年間で18時間の余剰時間を創出

© OPEN, Inc. All rights reserved.

病院でのRPA活用事例 ③収益向上

■せん妄ハイリスク・肺血栓塞栓患者特定支援ロボット

電子カルテから、3日～1日前に入院した患者リストと所定の文書が作成されているかの一覧を抽出。
出力したデータのうち、せん妄ハイリスク・肺血栓塞栓に関する文書が作成されている場合は、それぞれの文書を開き、評価結果を抽出します。最後に、対象となる患者を特定した結果を出力するロボット。クラークはこのリストをチェックしながら、算定漏れを防ぎます。

医事課

前日入院と算定の関連データを出力

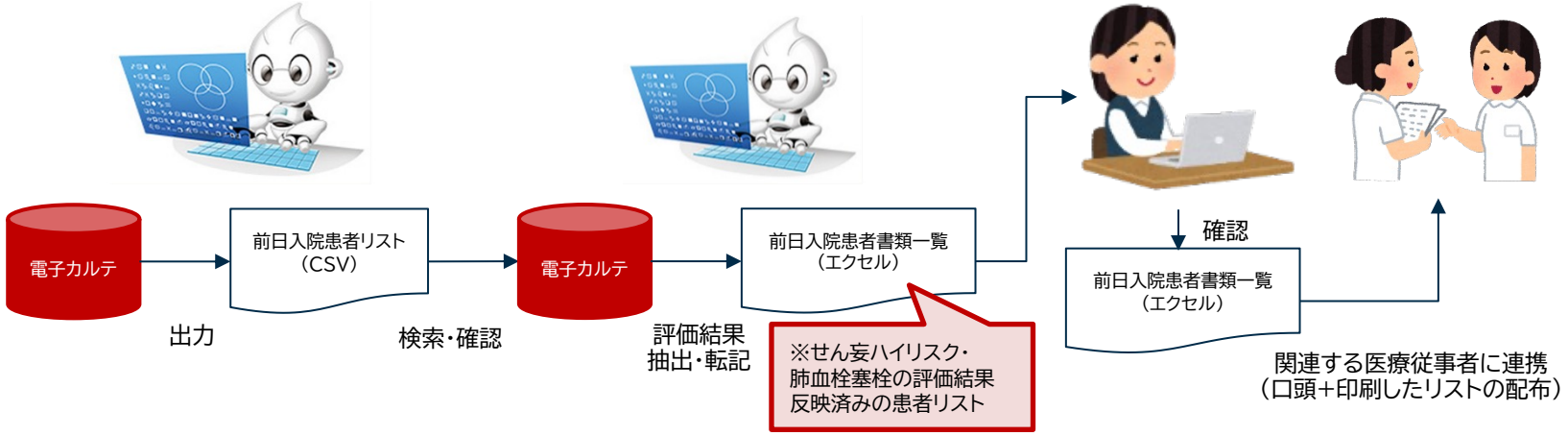
- ロボットが電子カルテから前日入院と算定に関わる文書の有無が一覧となったデータを出力

各患者の文書を確認し、評価について確認・抽出

- せん妄ハイリスク・肺血栓塞栓に関する文書が作成されている場合は、それぞれの文書を開き、評価結果を抽出
- 確認結果を一覧にし、所定フォルダに格納

オーダー登録漏れを防ぐ

- 出力リストをもとに、予防的対応の実施有無とオーダーの登録有無を確認
- オーダー登録漏れを検知した場合はクラークから各病棟の看護師に連携



・RPA導入前：担当者が電子カルテからデータを出力し、各患者の評価結果を確認・抽出
・RPA導入後：データ出力・加工の部分はロボットによる自動化を実施、担当者が出力リストを確認、
年間で60時間の余剰時間を創出

© OPEN, Inc. All rights reserved.

RPAユーザーの声［名古屋大学医学部附属病院］

名古屋大学医学部附属病院（公式サイト：https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/）

現場課題　「医師の働き方改革」を見据えてRPAに着目！

2018年、当時の石黒直樹病院長は、医療従事者の負担軽減と働き方改革の推進を念頭に「業務効率化ツール」としてRPAに着目しました。まずは事務部でのBizRobo!導入に踏み切り、年間1,000時間を超える業務時間削減を実現するなど、大きな成果を上げました。

電子カルテシステムなどが動く「診療ネットワーク」への導入も期待されていましたが、セキュリティ対策が施された閉鎖ネットワークであるため、RPAの利用には高いハードルがありました。しかし、リスクの洗い出しや想定される問題点への対応を継続的に進めた結果、2023年に新たに診療ネットワーク上でのBizRobo!の稼働を実現しています。

導入効果　事務部での成功を経て、医療現場への導入を開始！

BizRobo!導入後、20名ほどのメンバーからなるRPAプロジェクトチームが事務部内に設置され、人事労務課の「医師の勤務時間の計算支援ロボット」や経営企画課の「外部資金の予算執行状況の確認表を作成して送付するロボット」など十数体のロボットが運用されました。

これにより年間1,000時間以上の業務時間削減に成功しています。その後もロボット化できる業務の探索が続き、現在は事務部のネットワーク上で43体のロボットが運用されています。さらに2023年からは診療ネットワーク上でも8体のロボットの運用がスタートしました。

名古屋大学医学部附属病院
BizRobo!導入
インタビュー事例

全文はこちらから

rpa-technologies.com/case/case092/

© OPEN, Inc. All rights reserved.

導入までの流れ

ユーザー様

弊社

自動化業務の洗い出し

同業種の自動化事例の提示

対象業務の優先順位付け、トライアルの進行やスケジュール、サポート等の打ち合わせ

無料トライアルで操作感の確認とロボ作成

進捗に応じた伴走サポート、疎通検証等

導入要件を満たすかの検証

不足情報の提供や効果検証の支援

導入判断

導入の場合は、運用保守、オンボーディングの打ち合わせ

複数製品の比較ポイントの整理

比較中製品の比較ポイントの確認（2～3社がおすすめ）

ご相談、お問合せはこちらまで

https://rpa-technologies.com/inquiry/contact

全国10拠点どこからでもご支援可能！
まずはお気軽にお問合せをください！

© OPEN, Inc. All rights reserved.

オープン株式会社について

会社名	オープン株式会社
持ち株会社	オープングループ株式会社【東証プライム：6572】
設立	2013年7月
代表者	代表取締役執行役員社長　石井 岳之
所在地	東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル 3階
事業内容	スマートロボット（RPA、AI）を活用した情報処理サービス、コンサルタント事業 スマートロボット（RPA、AI）を活用したアウトソーシング事業 スマートロボット（RPA、AI）を活用したデジタルマーケティング、オンライン広告事業

© OPEN, Inc. All rights reserved.

BizRobo!

ヒトの進化を共創する

医療向けRPAならBizRobo!

BizRobo!についての情報はこちら

https://rpa-technologies.com

© OPEN, Inc. All rights reserved.

本カタログの記載事項は変更になる場合がございます。 2025年2月版